

話題提供:高 誠晩
(京都大学大学院)

「大量死」を
残した社会と
向き合うとは

無料

11月30日(金)

午後1:30~4:30

大阪市立大学

田中記念館3階会議室

お問い合わせはセンターまで
06-6605-2035
otazune@rchr.osaka-cu.ac.jp

「大量死」を残した社会とどのように向き合うのか。大韓民国誕生期に起きた済州4・3事件の事例を通して、島に散在している死と生の痕跡を辿る。「犠牲者から死者へ」という逆のベクトルを駆使しつつ、遺跡と慰霊塔、儀礼、遺骨発掘などについて議論する。

参考文献:(1)高誠晩、「紛争後社会における大量死の意味づけ—沖縄戦の戦後処理と済州四・三事件の過去清算の事例から—」『ソシオロジ』第57巻1号(174号)、2012/6:59-74。

(2)高誠晩、「済州・虐殺と追悼—『死者』の再構成という観点—」『国家と追悼—「靖国神社か、国立追悼施設か」を超えて』、山本浄邦編、社会評論社、2010/8:163-209。